

## 活水論文集 看護学部編 第8集の発刊に寄せて

活水女子大学看護学部長 野口 静子

2021年度は、COVID-19感染拡大の脅威に脅かされる中で東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。年が明け、コロナのオミクロン株による第6派の急激な感染拡大の影響で看護学部の学校閉鎖と各実習施設の実習受け入れ停止による学内実習、オンライン授業の実施等、今年度も2020年度から引き続きCOVID-19の感染防止の対応に追われた1年間でした。看護学部では、こうした様々な厳しい状況下にありましたが、全教員が協力して今できる最大限の教育に取り組んできました。また、研究活動についても様々な制約があったことと思われます。このような中で論文を寄稿された先生方の努力には頭が下がります。専門分野での研究が2編ではありますが、活水論文集 看護学部編 第8集を発刊することができることは喜ばしい限りです。

2022年度入学生から適用される改正カリキュラムでは、これからの看護職には医療・看護を取り巻く環境の変化と多様な場において、対象の多様性・複雑性に対応した看護が実践できる看護師の育成が期待されています。コロナ禍であっても、看護の質の向上と発展のために教育の質を確保し、より研究活動ができる環境と体制を整える必要があると考えています。

活水論文集 看護学部編の発刊に当たり、ご尽力くださいました図書学術委員、査読委員、編集委員の先生方に深く感謝いたします。